

資料・統計

2001年中央手術部手術統計

Annual Report of Operations in 2001

新潟県立がんセンター新潟病院

中央手術部

1. 外科

外来手術	47	乳腺	47	Staging laparoscopy	9
		その他	0	腹腔鏡下部分切除	1
甲状腺	2			腹腔鏡下幽門側切除	8
甲状腺癌再発	1			非切除	0
甲状腺全摘術	1			単開腹	0
乳腺	257			再発	10
良性	8	良性腫瘍	8	肝転移切除	2
		乳輪下膿瘍	0	リンパ節郭清	4
乳癌	249	Auchincloss	95	局所切除	3
		単純乳房切除	16	卵摘	1
		乳房温存手術	114	イレウス	9
		Probe lumpectomy	2	腸切除	1
		部分切除	13	バイパス	1
		Patey	0	癒着剝離	2
		その他	9	人工肛門造設	3
食道	25			胃ろう・空腸ろう	2
食道癌		非上皮性腫瘍(悪性)	12		
右開胸	23	肉腫	8		
食道肉腫	1	悪性リンパ腫	2		
憩室	1	その他 SMT	2		
胃	288	良性潰瘍 SMT	5		
胃癌	247	その他	5		
非手術	5			結腸, 直腸手術症例	177
切除	242			原発	153
全摘	45			結腸悪性	98
残胃全摘	9			S状結腸切除	33
噴門側切除	7			右半結腸切除	22
幽門側切除	151			結腸部分切除	16
睪頭十二指腸切除術	1			右結腸切除	10
EMR	0			左半結腸切除	8
SLR	11			横行結腸切除	4
				亜全摘	2
				非切除	1

	その他	2
結腸良性	1	
直腸悪性	54	
	前方切除	26
	低位前方切除術	20
	直腸切断術	2
	経肛門的切除	2
	非切除	1
	その他	3
直腸良性	0	
再発	4	
	結腸悪性	3
	直腸悪性	1
肝転移		2 <small>（上呼吸器癌に含まれる）</small>
	異時	0
	同時	2
その他の手術		20 <small>（内臓手術）</small>
肝・胆・膵	132	
	肝細胞癌	12
	転移性肝癌	19
	胆管細胞癌	2
	胆嚢癌	8
	胆管癌	9
	乳頭部癌	3
	膵頭部癌	10
	膵体尾部癌	10
	十二指腸癌	2
	小腸 GIST	5
	結腸 GIST	1
	脂肪肉腫	1
	脾腫瘍	1
	転移性小腸腫瘍	2
	乳癌・腹腔鏡下卵摘	1
	その他癌再発	10
	膵管乳頭腫瘍	1
	肝細胞過形成	1
	肝嚢胞	1
	肝血管腫	4
	先天性総胆管拡張症	1
	胆石症・胆嚢炎	17
	総胆管結石症	4
	その他	7

外科における2001年の手術件数は入院手術881例、外来手術47例で外来手術は2000年と差がなかったが入院手術が約100例減少した。これは食道癌が約10例、胃癌が約40例、結腸・直腸癌が約50例減少したことによる。乳腺手術は約250例で横道いであったがAuchinclossが減少し乳房温存手術が増加した。胃

癌は全摘・幽門側胃切除ともに減少した。2001年からは staging laparoscopy が新たに施行された。結腸癌は約100例で横道いであったが直腸癌と再発例の手術が減少した。肝胆膵では胆石症が減少し、癌再発の手術が増加した。外来手術は47例で全例乳腺の手術であった。最近の手術の傾向としては診断の進歩により早期の癌が見つかるため縮小手術が増加し、定型の手術が減少している一方、高度進行癌の拡大切除や再発癌の治療は疾患ごとには年ごとに変動が見られるものの重要な外科治療の対象になっている。

(文責 土屋嘉昭)

2. 呼吸器外科・心臓血管外科

1	肺・縦隔疾患に対する手術	263
1	気管(支)疾患	7
	狭窄に対する肉芽除去術	1
	狭窄に対するステント挿入術	1
	気管支瘻閉鎖術	1
	気管切開	4
2	肺疾患	207
2-1	良性肺疾患	12
	肺過誤腫	2(2)
	真菌症	4
	嚢胞性肺疾患	1(1)
	炎症性肺疾患	3(1)
	その他	2(1)
2-2	悪性腫瘍	195
2-2-1	原発性肺癌	177
	全摘除	2
	肺葉切除	104(8)
	区域切除	37(1)
	部分切除	29(6)
	試験開胸	2
	審査開胸	3
2-2-2	転移性肺腫瘍	17
	結腸・直腸癌肺転移	6(1)
	骨軟部腫瘍肺転移	2(1)
	腎癌肺転移	1
	乳がん肺転移	1
	胃がん肺転移	1(1)
	婦人科疾患肺転移	2
	肺癌肺転移	3
	胆道疾患肺転移	1(1)
2-2-3	肺リンパ腫	1

3 縦隔疾患	27
3-1 縦隔腫瘍	22
胸腺腫	4(2)
嚢腫	5(3)
神経性腫瘍	3(2)
リンパ節腫瘍	5(2)
MFII	1
甲状腺腫	3
奇形腫	1(1)
3-2 縦隔鏡検査	3
3-3 多汗症	2(2)
4 胸膜疾患	15
気胸	7(7)
膿胸	3
肺泡瘻	2
胸膜中皮腫	2
術後出血	1
5 胸壁疾患	7
神経鞘腫	1
肋骨腫瘍	2
肋骨骨折	1
軟骨肉腫	2
胸骨哆開	1
II 血管疾患に対する手術	5
下肢静脈瘤	5

() : 胸腔鏡下手術

呼吸器疾患の手術数263, 血管疾患の手術数5, 全体では268で, 2000年の手術数253より僅かに増加した。

原発性肺癌に対する手術は177で, 審査開胸3例を除くと切除を目的にした症例は174で前年より1例減少した。

昨年の特徴は, 多汗症に対する胸腔鏡手術のauthorityである吉谷先生が赴任したことで多汗症の紹介患者が増加し, 症例を厳選して2例に手術を行い症状の著明な改善が得られたことと, 瀰漫性悪性胸膜中皮腫症例に胸膜肺全摘術+横隔膜・心膜合併切除を施行し完全に切除できた症例を経験した後に同疾患の紹介が続き, 本年にかけて計4例に同様な手術を施行した。悪性胸膜中皮腫は全国的に増加傾向にあることから, 今後も手術適応症例が続くと考えている。

(文責 小池輝明)

3. 整形外科

腫瘍	
良性軟部腫瘍	
切除術	89
切除+皮弁	3
良性骨腫瘍	
生検のみ	3
切除術	14
掻爬および骨移植術	11
小計	120
悪性軟部腫瘍	
広範切除のみ	9
広範切除+筋皮弁等の再建術	5
切除術	5
生検術	5
小計	24
悪性骨腫瘍	
広範切除のみ	8
広範切除+人工関節等の再建術	5
生検術	5
小計	18
転移性腫瘍	
脊椎	
椎弓切除+後方固定	22
腫瘍切除+前方固定	4
椎弓切除のみ	9
腫瘍切除	3
硬膜内転移腫瘍切除	1
椎弓切除+脊椎内転移切除	1
椎体垂全摘	1
四肢および胸壁	
切除+再建術	14
切除術	14
創外固定	1
小計	70
脊椎疾患	
非腫瘍性疾患	
ラブ法	28
椎弓切除	16
椎弓切除+後方固定	12
前方固定(すべて頸椎)	3

頸椎後方拡大術	5
腫瘍性疾患	
原発性脊椎腫瘍切除	1
椎体椎間板炎生検	4
脊髄腫瘍	6
小計	75
股関節疾患	
人工関節置換術	7
人工関節再置換術	3
人工骨頭置換術	4
小計	14
膝疾患	
人工膝関節置換術	13
人工膝関節再置換術	2
高位脛骨骨切り術	3
遊離体摘出	1
半月板切除	2
小計	21
リウマチ性疾患	
滑膜切除術	2
関節形成術	3
小計	5
肘, 手関節疾患	
腱鞘切開術	32
神経剥離術	18
滑膜切除	1
腱縫合	1
腱移行	1
小計	53
足, 足関節疾患	
爪形成術	2
足形成術	1
アキレス腱延長術	1
アキレス腱縫合	1
外反拇指矯正骨切り術	2
神経剥離術	1
小計	8

外傷	
骨接合術	16
肩関節非視血的整復	2
鏡視下滑膜切除	1
小計	19
その他	
抜釘術	8
デブリードマン	7
植皮術	1
異物除去	2
腐骨切除	1
関節受動術	1
筋生検	1
偽関節手術	1
小計	22

2001年 合計449件

合計に対する腫瘍性疾患の比率は53%であった。そのうち良性腫瘍50.4%、悪性腫瘍17.6%、転移性腫瘍29.4%、脊髄腫瘍2.5%であった。2000年と比べると転移性骨腫瘍の手術が著明に増加した。人工関節手術は例年並みであった。

(文責 畠野宏史)

4. 脳外科

(1) 脳腫瘍	
摘出術	35
生検術	0
蝶形骨洞手術	1
シャント	4
その他	10
(2) 脳血管障害	
血腫除去術	2
クリッピング	1
シャント	1
その他	2
(3) 頭部外傷	
血腫除去術	9
(4) その他	1
計	65

コメント

昨年より件数は減ったが、内容の濃い手術は増えた。(吉田誠一)

5. 産婦人科手術統計

腹式子宮全摘術 (+ 附属器切除術など)	137例
子宮筋腫	88
子宮腺筋症	13
子宮頸部異形成	3
子宮頸癌 0期	13
I a 期	3
良性卵巣腫瘍	11
子宮内膜増殖症	5
子宮溜膿腫	1
腔式子宮全摘術	4例
子宮頸癌 0期	3
I a 期	1
準広汎子宮全摘術	3例
子宮頸癌 II a 期	1
子宮癌肉腫	1
陰癌	1
広汎子宮全摘術	10例
子宮頸癌 I b 1 期	5
I b 2 期	1
II a 期	2
II b 期	2
卵巣悪性腫瘍 (境界悪性腫瘍を含む) 手術	22例
I a 期	7
I c 期	4
II c 期	1
III b 期	1
III c 期	2
IV b 期	6
転移性	1
SLO (Second Look Operation)	2例
卵巣癌	2
腹式子宮全摘術 (+ 附属器切除術) + 骨盤リンパ節廓清術 (+ 傍大動脈リンパ節生検・廓清術)	
子宮体癌	31例
I a 期	2
I b 期	17
I c 期	2
III a 期	5
III c 期	5
子宮筋腫核出術	29例

腹腔鏡手術	10例
良性卵巣腫瘍	8
良性卵巣腫瘍	1
不妊症 (癒着剝離術)	1
附属器切除術	39例
子宮頸部円錐切除術	32例
子宮頸部異形成	3
子宮頸癌 0期	26
I a 期	2
II a 期 (化学療法後)	1
経頸管的切除 (TCR=transcervical resection)	3例
子宮体癌	1
子宮内膜ポリープ	1
過多月経	1
子宮脱・脛脱・膀胱脱・直腸脱手術	24例
腔式子宮全摘術 + 前腔壁形成術	11
腔式子宮全摘術 + 前腔壁形成術 + 後腔壁形成術	3
前腔壁形成術	2
中央閉鎖術	8
その他悪性腫瘍に対する手術	21例
卵管癌	2
広汎外陰切除術	1
外陰切除術および皮膚移植 (バジェット病)	1
外陰バジェット病再発に対するレーザー蒸散手術	1
同上術後癒着剝離術	1
外陰バジェット病外陰生検	1
頸癌再発腫瘍 (外陰・鼠径部) 切除	4
体癌大動脈リンパ節再発病巣切除	1
腹腔内再発腫瘍切除	1
頸癌再発	2
体癌再発	2
卵巣癌再発	5
卵管癌再発	1
帝王切開術 (予定帝切11例, 緊急帝切12例)	23例
前回帝切	5
胎児仮死	2
骨盤位	2
遷延分娩	3
微弱陣痛	1
双胎	2
前置胎盤	2

妊娠中毒症	1
卵巣腫瘍合併	1
児頭骨盤不均衡	1
回旋異常	1
恥骨腫瘍術後	1
胎盤機能不全	1

子宮内容除去術	28例
不全流産	8
稽留流産	7
子宮外妊娠疑い	1
子宮内膜増殖症	2
子宮体癌(疑い)	4
子宮溜膿腫	1
胞状奇胎	1
人工妊娠中絶	4

その他の疾患に対する手術	10例
卵管切除術(子宮外妊娠)	1
鼠径部リンパ節切除	1
バルトリン腺膿瘍造袋術	1
臀部腫瘍切除	1
腹壁創離開・再縫合	2
頸部円錐切除術後出血再縫合	1
陰断端膿瘍穿刺	1
骨盤リンパ膿瘍切開排膿	1
骨盤内偽嚢胞切開剝離	1

428例

2001年の産婦人科手術は428例であり、前年に比べて38例増加した。悪性腫瘍のうち子宮頸癌は、頸部円錐切除術が増えたこと(前年10例、今年32例)もあり、昨年の36例から61例に増加した。広汎子宮全摘術は、昨年と同じ10例であった。一方、子宮体癌(新規)に対する開腹手術は、昨年の18例から31例と著しく増えた。今後もこの疾患の増加が予想される。卵巣悪性腫瘍(新規)に対する手術は、昨年(20例)とほぼ同じ22例であった。

今年の特徴のひとつは、腹腔鏡手術・経頸管の手術・頸部円錐切除術が大幅に増加したことである。患者にとっては低侵襲で、入院期間の短縮がはかられているが、前2者は手術に要する時間が長いいためスケジュールの調整に配慮を要する。

現在、産婦人科におけるクリニカルパスは麻酔(全身・腰椎)と手術術式などのちがいがにより7種類に集約され、なおいくつかの問題点や改善すべき事項があるものの比較的順調に実施されている。また、全身麻酔(原則的に当科医師が施行)を要する手術患者に対して、麻酔科医師の協力をいただいて硬膜

外麻酔の併用を開始し、術中・術後の疼痛管理・軽減に寄与している。

なお、2001年の分娩数は139件であり、帝王切開率は $23/139 = 16.55\%$ であり、2000年の 9.55% を上回った。

(文責 本間 滋)

6. 耳鼻咽喉科

(1) 悪性腫瘍に対する手術 99

1. 口腔(舌以外)	3
切除	2
切除+再建	1
2. 舌	5
部分切除	3
切除+再建	2
3. 鼻副鼻腔	5
腫瘍切除	2
上顎部分切除	2
動注治療	1
4. 中咽頭	3
切除+再建	3
5. 下咽頭	2
咽喉頭摘出	1
咽喉頭食道摘出+再建	1
6. 喉頭	8
全摘	8
7. 甲状腺	57
葉切除	52
亜全摘	1
全摘	4
8. 頸部	10
転移性リンパ節切除	4
頸部郭清	6
9. 唾液腺	6
顎下腺腫瘍切除	3
耳下腺全摘	3

(2) 良性疾患に対する手術 45

1. 口腔・口唇	3
腫瘍等切除	3
2. 鼻副鼻腔	4
上顎根本術	2
鼻根本術	1
切開・排膿	1
3. 咽頭	3
扁桃摘出術	2
副咽頭腫瘍摘出	1
4. 喉頭	12

声帯ポリープ切除	8
肉芽腫・嚢胞切除	3
声帯注入術	1
5. 甲状腺	7
葉切除	2
亜全摘	2
全摘	3
6. 唾液腺	12
顎下腺摘出	3
耳下腺部分切除	9
7. 副甲状腺	4
腫瘍摘出	4
(3) その他	89
<hr/>	
1. 生検	69
咽頭	9
喉頭	34
甲状腺	2
頸部リンパ節	22
唾液腺	2
2. 気管切開	15
3. 気管切開孔手術	3
4. 食道ブジー	1
5. その他	1

悪性腫瘍手術は例年と大差はなかった。甲状腺手術はスタッフの関係から当科では60~70例が限界のようである。良性疾患ではバセドー手術と副甲状腺手術が多かった。

(文責 長谷川聡)

7. 泌尿器科

1. 後腹膜腫瘍	(2)
後腹膜肉腫摘除	1
転移性副腎腫瘍摘除	1
2. 腎細胞癌	(37)
根治的腎摘出術	24
部分切除・腫瘍核出	12
腹腔鏡下腎摘出術	1
3. 腎盂尿管癌	(9)
尿管全摘除術	7
尿管膀胱部分切除	1
鼠茎リンパ節切除	1
4. 膀胱癌	(140)
根治摘膀胱全摘除術	
回腸導管	10
回腸膀胱	1
尿管皮膚ろう	1

TUR-Bt (生検を含む)	125
膀胱部分切除	3
5. 前立腺癌	(251)
根治的前立腺全摘除術	15
針生検 (疑いを含む)	205
TUR-P	2
去勢術	29
6. 精巣腫瘍	(12)
高位精巣摘除術	11
後腹膜リンパ節郭清	1
7. 陰茎癌	(1)
陰茎部分切除	1
8. その他	(5)
白血病に対する精巣生検	3
転移性精索腫瘍切除	1
直腸癌膀胱浸潤手術(他科手術と併施)	1
<hr/>	
小計	(457)

表2. 良性腫瘍に対する手術

1. 副腎腫瘍	
副腎摘除術	1
腹腔鏡下副腎摘除術	1
2. 腎部分切除	1
3. 前立腺肥大症 TUR-P	42
<hr/>	
小計	(45)

表3. 腫瘍以外の手術

1. 腎臓	
経皮的腎萎縮術(原因疾患は良悪を含む)	9
腎開放生検	1
2. 尿管	
尿管カテーテル, 尿管鏡 (原因疾患は良悪を含む) (カテーテル留置を含む)	32
尿管膀胱吻合 (他科手術と併施)	1
尿管石切術 (他科手術と併施)	1
尿管皮膚ろう造設	1
3. 膀胱	
膀胱憩室経尿道手術	1
経尿道的膀胱碎石	6
コックハウチ碎石, 修復	4
膀胱ろう造設	2
4. 尿道	
内尿道切開 (尿道狭窄)	12
尿道脱, 尿道小阜	2
尿道結石摘除	1

5. 陰囊・精巣	
精索静脈瘤腹腔鏡手術	1
陰囊水腫根治手術	8
精巣上体切除	2
6. 陰茎	
異物摘除 (他手術と併施)	1
7. その他	
ストマヘルニア手術	1
鼠径ヘルニア	2
包茎手術	2
創再縫合, ドレナージ	5
<hr/>	
小計	(95)

2002年の泌尿器科手術, 延べ571名, 597件の集計を行なった。同一症例で複数回, 複数箇所の手術をしている場合があり, これらはそれぞれ1件として表記した。悪性腫瘍の手術が76.5%, 良性腫瘍の手術が7.5%を占めていた。

(文責 小松原秀一)

8. 皮膚科手術統計

悪性腫瘍	
<hr/>	
悪性黒色腫	20
基底細胞癌	23
有棘細胞癌	10
ボーエン病	18
日光角化症	6
外陰バジレット癌	13
汗腺癌	2
隆起性皮膚線維肉腫	1
悪性リンパ腫	12
毛包癌	1
転移性皮膚癌	12
<hr/>	
小計	118
良性腫瘍・その他	
<hr/>	
母斑細胞母斑 (ほくろ)	135

表皮嚢腫 (粉瘤)	94
脂漏性角化症	33
脂肪腫	17
皮膚線維腫・軟性線維腫	20
脂腺母斑・青色母斑・表皮母斑	16
汗腺腫瘍	14
血管腫	7
ケラトアカントーマ	8
石灰化上皮腫	16
化膿性肉芽腫	10
皮角	2
爪下外骨腫	3
肥厚性癬痕	5
その他	43
<hr/>	
小計	423

昨年に比し件数は微増したが, 内訳に大きな変化はみられなかった。

(文責 竹之内辰也)

9. 眼科

白内障	超音波水晶体乳化吸引術+人工レンズ挿入術	198
	計画的囊外摘出術+人工レンズ挿入術	13
緑内障	線維柱帯切除術	7
	虹彩切除術	1
内反症	Hotz氏法	4
眼瞼腫瘍	摘出術	8
結膜腫瘍	摘出術	1
眼瞼下垂	眼瞼挙上術	1
翼状片	切除術兼結膜弁移動	2
霰粒腫	摘出術	5
睫毛乱生		2
<hr/>		
計		242件

昨年と比較しても特に手術件数及びその内容に大きな変化はみられなかった。

(文責 難波克彦)